

「持続可能な社会の創り手となる 子供たちの育成を目指して」

児童生徒の「実践的な学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成する教育の充実を図るために、北斗市内全ての小中学校と北斗市教育委員会が丸となって、「子供たちが持続可能な社会の創り手となることができるようにする」ことをオール北斗で目指しています。

北斗市教頭会では、各校教頭が4つのプロジェクトチーム（学力等向上、地域連携、外国語・国際理解、ICT）に所属し、児童生徒の育成に向けた教育活動を推進しています。

チームの一つ、学力等向上プロジェクトチームは、北斗市教育委員会と北斗市校長会、北斗市教頭会で構成される北斗市学力等向上推進委員会に属しており、学力の向上「家庭学習の工夫」、体力の向上「健康的な生活習慣の確立」、心の教育の充実「社会生活の基礎の育成」「いじめ・不登校への対応」、共通の取り組み「授業の充実」を重点として明確にした、「北斗市の学力等向上プラン」を作成しました。

具体的には、ICT機器の活用や外国語活動・外国語科の充実、新しい生活習慣の徹底などがあげられますが、これらの取り組みを推進し、児童生徒を育成するためには、教職員の資質や能力の向上が求められます。

7月26日には、北斗市学力等向上推進委員会が主催し、「北斗市学力等向上研修会」を実施しました。研修会では、北斗市内小中学校の学力向上を担当する教諭が集い、各校の課題や取り組みの共有化を図りました。中でも、5月27日の

「北斗市学力向上の日」に実施された全国学力・学習状況調査の自校分析から導かれた「下位層の底上げ」や「読書習慣」「小中連携」「生活態度」などの課題改善のために、各校がどのように取り組んでいるかを交流しました。中学校区内で共通した「学習や生活のスタンダードの徹底」「ICT機器の活用」

「小中一貫を意識した教育課程編成」「家庭学習や読書の習慣化」などの取り組みを共有化し、これらを各校に持ち帰り、実践していくことを確認しました。今後は、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」や「いじめアンケート」の実施と分析、「心を育てる道徳の授業実践」等を推進し、「知・徳・体」のバランスの取れた教育の充実と子供たちが社会に出て生きていくために必要な学力などを保障していきたいと考えています。



各校の取り組みを共有

（北斗市教頭会 上磯小学校

教頭 寒河江 孝之）

「心の拠り所^よをつくる!!

川川小学校

養護教諭と保健室

本校は、児童数の減少に伴って今年度から養護教諭の配置がなくなりました。養護教諭の先生自らが、声高らかに言う

「ようなことはないでしょうが、学校保健に関する専門的な知識や技能、ノウハウをもった養護教諭の存在はとても重要だと感じています。」



本校の保健室

スクールヘルスリーダーの存在

養護教諭の配置がない代わりとして、本校にはスクールヘルスリーダーが派遣されています。養護教諭のように常勤というわけにはいきませんが、年間に14日の派遣日が設定されており、定期健康診断や救急処置などの保健管理や保健指導などに関する指導と助言がその本務になっています。

本校に派遣されている先生は、人間的にも誠実に信頼できる素晴らしい方です。勤務日数や勤務時間が限られている中で、中休みや昼休みに児童と触れ合う時間を意識的にもち、児童の実態を把握したり情報を収集したりしながら、児童との信頼関係を築く工夫や配慮があり、本校を

支える心強い存在の一人になっています。受け容れてくれる存在と居場所

児童の体調不良やけがの手当てにあたるだけではなく、日常の精神的なケアやサポート、そして児童の「心の拠り所」の一つになり得る養護教諭や保健室の重要性をあらためて実感しています。ちよつとした会話から普段とは違う心の変化を読み取ったり、担任にはなかなか話せない悩みや愚痴を聞いたたりなど、児童が心を解き放つて、安心して本音を言える存在と居場所であることも、その大切な役割だと考えているからです。

自分を受け入れてくれる受容的な存在が居ると、児童の心は自然と解きほぐされ、自分を肯定的にとらえながら目標をもって、がんばることができるようになります。そんな経験は、きつと今後の成長のプラスになるはずです。

プラス思考で成長を促す

私たち職員は養護教諭にはなれませんが、スクールヘルスリーダーの先生に大いに学び、その力を借りながら、常にアンテナを高くして児童をサポートし、一人一人のよりよい成長を促していきたいと考えています。



まさに「手当て」です

（川川小学校 教頭 北谷 朋紀）